

重要なことは、日本の通信事業者が 世界情勢に沿った技術を用いることです

——日本の産業、特に携帯電話産業では、「ガラパゴス諸島」と呼ばれる独自のエコシステムがあります。Rohde & Schwarz社のビジネスの中で、日本はどのように位置付けられるのでしょうか。

Leicher 氏 日本は、少なくともテストと測定の分野では、米国、中国と並んで世界で最大の市場の一つであり、無視できない重要な市場です。過去はどうであれ、私たちが注力しているLTEに関しては、日本はガラパゴス諸島にはならないと確信しています。このため、日本での成功は、世界での成功に直結します。

携帯電話のビジネスでは、いかに優れた技術やビジネス・モデルでも、世界の流れから孤立しては、有利なビジネスを展開できないことが明らかになりました。こうした背景もあり、米Verizon Wireless社やKDDIなど、これまでCDMAを採用していた事業者、NTTドコモや中国China Mobile Communications社などW-CDMAや独自規格を採用してきた事業者、さらにWiMAXを使っている事業者も、LTEの採用を検討しています。日本には、力のある通信事業者、通信システム、端末、チップセットのメーカーが多数あります。LTEを通じて、日本の携帯電話関連企業は、必然的に世界市場につながるようになるでしょう。

——世界市場の中で、日本企業は強みを発揮できるのでしょうか。

Leicher 氏 過去の日本企業の製品は、世界市場が望んでいるものよりも進み過ぎていたため、世界から孤立したと言えます。LTEのアプリケーションには、既に日本で事業実績のあるものが多くあります。つまり、LTEの潜在能力を引き出すための効果的な使い方や、応用を実現するために必要になる技術について、日本企業は数多くのことを知っているのです。日本はとても良いポジションにいると思います。

また、日本は、他の国にはないアドバンテージがあります。常に新しい技術に満ち溢れ、国内市場の消費者も常に最先端の製品と技術を求めていることです。日本企業は、非常に早い段階で新しい技術を試

し、他国の企業に先駆けて課題を洗い出し、対策に着手できます。ただし、こうした強みを、ビジネスの強みにつなげるためには、世界の動きにもう少し歩み寄る必要があると思います。

——しかし、日本には技術の海外展開を阻害する産業構造上の問題があります。通信事業者が、技術の進化の方向性を決め、システム・メーカーが主体的に技術を磨くことができません。

Leicher 氏 技術的な意思決定ができる通信事業者がいることは、欠点なのでしょうか。私はそう思いません。日本の携帯電話のエコシステムの中で、通信事業者はとても大きな役割を演じています。日本では、通信方式、端末、サービス、ビジネス・モデルといった携帯電話事業に必要な要素の技術開発のベクトルを、通信事業者がそろえています。こうした役割を演じる企業がいないと、LTEのような新しい通信サービスの利用が広がりません。同様の役割を演じているのは、米国の米Verizon Wireless社、中国のChina Mobile Communications社ぐらいしか見当たりません。重要なことは、通信事業者が世界情勢に沿った技術を用いることです。

——LTEは携帯電話を高度化するだけでなく、様々な機器に組み込み、遠くにある機器間（machine-to-machine: M2M）で情報を高速にやり取りできる潜在能力を秘めていると思います。

Leicher 氏 その通りです。M2M型のネットワークでは、携帯電話産業に新しいプレーヤーが参入することになるでしょう。

スマートメーターのようなデータレートがとても小さいアプリケーションは、通信事業者にとって魅力がないように思えます。しかし、セキュリティを強化する仕組みやサービスなどが新たに必要になります。このため、新しい技術や機器、部品、システムが生まれることでしょう。無数にある機器の間をつなぐわけですから、加入件数がケタ違いに増える可能性があります。チップセットを供給するメーカーや、テストや検証の手法を供給するメーカーにとっては、新しい技術が必要になるわけではありません。しかし、これは新しくて大きな事業機会だと思います。



INTERVIEW

ドイツRohde & Schwarz GmbH & Co.KG
President and COO

Christian Leicher 氏

ガラパゴスで熟成した技術を LTEが世界に広げる

いよいよ2010年末から、次世代移動体通信システム「LTE (long term evolution)」のサービスが日本や米国などでも開始される。データ伝送速度が劇的に向上し、通信接続の遅延時間が大幅に短縮することで、端末やアプリケーション、サービスが一新するとされている。LTEは、これまで世界の趨勢から離れて進化してきた日本の携帯電話関連事業を、どこに導くのか。世界中の通信事業者やシステム・メーカーと深いつながりを持ち、その動向に精通するドイツRohde & Schwarz GmbH & Co.KG President and COOのChristian Leicher氏に、LTEが日本の携帯電話関連企業に与えるインパクトを聞いた。

